

# リオデジャネイロオリンピック レポート

2016/9/7

映像メディアグループ

梶本啓太

今回8月5日から21日までブラジルで行われたリオ・オリンピックに柔道・レスリングの国際信号チームとして現地に行ってきました。オリンピック国際映像とはオリンピックの放送権を取得した世界中の放送局へ配信された大会公式競技映像の事で簡単に言うと自分たちで作られた映像が全世界の人々が見るということです。もちろん日本でも配信されていました。

ブラジルへはドバイ経由で行きました。まず新千歳空港から関西国際空港へ、そこからドバイへ10時間飛行機に乗りドバイでは3時間トランジットがありその後リオデジャネイロ行の飛行機に14時間乗りました。24時間以上も移動があり行くだけでも大変でした。

南半球の国ブラジルの夏は11月～4月、冬は5月～7月。大会期間中は日本と真逆の季節。ただ年間を通じて高温なため、8月の平均気温は最高26度、最低は19度程でした。(日本の6月相当)日中は気温がとても暑く札幌では感じたことのないサウナに入っているような空気感でした。朝晩はとても冷え込み長袖がないと寒く寒暖差が激しかったです。

飲料水は蛇口から出る水道水はうがいする程度は問題ないが飲用には適していませんでした。口に含んだだけでも錆びたような感じの味がしていました。水は必ず市販しているペットボトルミネラルウォーターを飲んでいました。オリンピックパーク内にはスタッフ用の自由の飲めるペットボトル(コカ・コーラがオリンピックのスポンサーなので) コーラ、7アップ、等5種類ほどのジュースなどがありました。コーラは日本よりも甘く国によって味が違うのだなと感じました。

今回泊まったホテルはオリンピックパークからは12キロほど、車で20分程度のところにあるリオ五輪に合わせて作られた新しい建物で、大会後はホテルではなく、マンションとして一般に販売される予定のホテルでした。幹線道路から少し入ったところではあるが周りに店舗等はありませんでした。警備員が入口に常時いました。地方や都市の一部のトイレでは紙が水に溶けないため使用済みのトイレトーパーを流してはいけないところがあり、トイレには小型のシャワーが備え付けられていてシャワートイレのように使用して紙は横のごみ箱に捨てていました。お風呂がなくシャワーのみでしたがお湯になったり水になったり安定したお湯が出なく毎日苦労しました。

食べ物は朝、昼はビュッフェ形式でした。昼は学校の給食みたいにプレートに盛られるのですが毎日300g位のステーキがありそのほかメイン以外に3～4種類の食べ物があり、これでもかって言うくらいの量を盛られていました。味はどれもかなりしょっぱかったです。ただ、毎日食べていたせいかその濃さに慣れ1度日本から持ってきたカップ焼きそばを食べたのですが味が無い位に薄く感じました。日本の“だし”という文化は本当に素晴らしいものだなと思いました。ケーキ等のデザートもあったのですが人生で初めて顎が外れるくらい甘く、砂糖より甘いんじゃないかってくらいでした。色々大変な事がありました。日本だけじゃなく世界のスポーツ界の歴史にも残るような映像を世の中に送り出した経験は一個人の人生においても貴重な体験となりました。行ってよかったと心から思えるオリンピックになりました。